
青春の肖像 7

山之内 白洞人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青春の肖像 7

【Nコード】

N 8 1 2 7 F

【作者名】

山之内 白洞人

【あらすじ】

遠い思い出に少女の影を追い求めて。

第7章

野梨子の生い立ち

私の教師生活もはや2ヶ月が過ぎようとしていた。

時は5月末、山々は新緑の季節を向かえ、緑がむせ返るほどだった。野梨子はますます私に露骨な好意を示していたし、山下先生も「先生、野梨はね、良い子なんだけど、凄いいませだから気をつけてくださいよ」何て忠告してくれていたのではあった。

私は独身の気がるさから時々寄宿舎にも泊まったし、そんな時野梨子に限らず生徒たちは皆、色々話しかけてきてくれたのだった。

哲学者は「先生僕はクリスチャンなんですよ」といつて聖書のことを話してくれたし、詩人は自作の詩をそつと私に見せてくれた。博士は相変わらず、大人びた口調で少し、斜に構えて辛口の世相評論を私にくれた。生徒会長（もちろんあだ名）の渡部さんはいつもやさしく、野梨子のよきお姉さんであり続けた。2人はいつも一緒にでこそ話してそつと見交わしてはくすつと笑ったりしていた。

そして孤独を愛する、須郷さんはいつも隅で本を読んだり恥ずかしそうにしていたっけ。

ああ、できればあのときに戻ってみたい。35年前のあのときに、私の青春、それは遠い思い出のあなたに今でもこうして生きてはい

るが、

しかし、すべては失われたしまったのだ。
あの、恥ずかしそうにしていた須郷さんは風の頼りに聞くとその後若くしてなくなったという。

そしてわたしの野梨子も今はもう何処にもいないのだった。

野梨子はある日私に自作の詩を見せてくれた。

「私の夢、それは遠いところに行くこと、

誰も知らない、遠いところ、

そこでなら私の夢もかなうのだから。」

そんな詩だったと記憶している。

『さびしそうな詩だね。』という。

「そうかなあ、こんな山奥にいてどこか遠いところに行きたいって誰でも思ふのよ」

と、いたつてのんきであった。『先生の家って山下県でしょ。今度つれてつて。』

と突然言ったり「先生の下宿へ料理しに行つてあげるわ」と甘えた瞳で言ったり、

私は、確かに心の中では、野梨子に対する感情の高ぶりをおさえ切れないようになってしまったのであった。

生徒会長の渡部さんはそんな、私の気持ちを看透かしたかのようにある日、

『先生、野梨ちゃんのこと好きなんでしょう？卒業したら結婚しちゃえば』

何て言つてけらけら笑つた。

聞くところによると

野梨子はこの山の二つ先の浅間温泉のさる旅館の娘で、

1人つこでたいそう大事に育てられたのだという。

たしかに野梨子はこんな山奥にしては、垢抜けていたし、育ちのよさから来る、

お嬢様っぽい少女ではあった。そしてみにつけるものも35年前のあんな山奥にしては皆、上品な物ばかりだった。

恐らくは高原の別荘地で、旅館を営むからには自然とハイブローな避暑客から、

影響を受けて、お上品に育つたのだらう。と思われるのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8127f/>

青春の肖像 7

2011年10月3日19時55分発行